

【公演概要】

- 主催:朝日新聞社・財団法人 2005 年日本国際博覧会協会
- 協力:財団法人 観世文庫・財団法人 橘秋子記念財団 SAP
- 開催日時:2005 年6月 20 日(月)午後 3 時 30 分開場／午後 4 時開演
- 場所:EXPO ホール
- 衣装デザイン:森英恵
- 立花:假屋崎省吾
- 演目:能の部 能「胡蝶」

出演:26 世観世宗家観世清和、藤田六郎兵衛(笛)ほか

バレエの部 バレエ「胡蝶」

振付:牧 阿佐美、音楽:藤田六郎兵衛

出演:逸見智彦、笠井裕子

【能「胡蝶」解説】

この能は、『源氏物語』の「胡蝶」の巻を背景にしている。かつて光源氏が住んだ住居跡を訪ねた僧の前に、一人の女性が登場する。この女性は、実は「胡蝶の精」であった。花に縁の深い蝶であるが、梅の花には戯れることができないことを嘆き、僧にその願いを託して消え去る。そして、僧の夢のなかに胡蝶の姿となってあらわれると、美しい舞を舞い、梅の花に戯れるのだ。観世流宗家として現在の能の中心にいる観世清和が、この美しい能を森英恵の衣装で舞う。風を大きくはらんで華麗なラインをみせる森英恵の衣装は、能の美しさの新しい発見となり、それはまことに夢のなかのごとき世界となるだろう。

【出演者プロフィール】



《能》観世清和 Kiyokazu Kanze

二十六世観世宗家

1959 年生まれ

25 世観世左近(元正)長男。

重要無形文化財総合指定保持者。

95 年 芸術選奨文部大臣新人賞 受賞。

フランス芸術文化勲章シュノリエ受章。

2003 年には世阿弥作の能「箱崎」を復曲上演。

2004 年 能楽の更なる普及のため「能楽観世座」を設立する。

著書に「一期初心」など。

財団法人観世文庫理事長。

社団法人観世会理事長。

社団法人日本能楽会常務理事。

国立能楽堂第 7 期能楽(三役)主任研修講師。



《立花》假屋崎省吾 Shogo Kariyazaki

華道家。假屋崎省吾花教室主宰。1958 年、東京生まれ。美輪明宏氏より「美をつむぎ出す手を持つ人」と評され、繊細かつ大胆な作風と独特の色彩感覚には定評がある。クリントン前米大統領来日時や、天皇陛下御在位10年記念式典の花の総合プロデューサー、石井竜也氏の全国コンサートツアー「ART NUDE」にて石井氏のアートと花のコラボレーションや、野村萬斎氏出演「能・狂言」の舞台美術、「浜名湖花博 庭文化創造館」にて風水の庭の花のプロデュースをするなど、内外のVIPからも高い評価を得ている。

著書に『花筐』華道家 假屋崎省吾 華麗なる花ことば』(メディアファクトリー)、自叙伝『花を愛した男 假屋崎省吾』(阪急コミュニケーションズ)、『花・葉・器・自由自在』(角川書店)、『假屋崎省吾の花スタイル』(NHK 出版)、『白雪姫』(新風社)、新刊として『別冊太陽 花-假屋崎省吾の世界-』(平凡社)DVD に『假屋崎省吾 花からはじまるライフスタイル』(ギャガコミュニケーションズ)、『華道家 假屋崎省吾 TOKYO をいける』(他多数。現在 TBS 「中居正広の金曜日のスマたちへ」、東山紀之氏司会の日本テレビ「@サブリッ!」にレギュラー出演中。また、NHK「趣味悠々-假屋崎省吾の暮らしを彩る花スタイル-」の講師を務めるなど、テレビ、雑誌、新聞などでも幅広い分野で活躍中。



《バレエ》逸見智彦 Henmi Tomohiko

6歳でバレエを始める。第14期生AMステューデント、橘バレエ学校を経て、1990年、牧阿佐美バレエ団に入団。これまでに「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」「ドン・キホーテ」「リーズの結婚〜ラ・フィーユ・マル・ガルデ〜」「ノートルダム・ド・パリ」などに主演するほか、「ロメオとジュリエット」「セレナーデ」「デューク・エリントン・バレエ」など数多くの作品で、ソリストや重要な役柄を務める。また1997年より新国立劇場バレエ団登録ソリストとして、「白鳥の湖」「ドン・キホーテ」「ジゼル」「シンデレラ」など、多くの作品に主演。ロマンティックな雰囲気を含んだ清潔感あふれる踊りが高く評価されており、日本を代表するダンスール・ノーブルである。1990年、第47回全国舞踊コンクール・バレエ・シニアの部で第2位を受賞。



《バレエ》笠井裕子 Yuko Kasai

6歳でバレエを始める。香川県の島田芸術舞踊学校を経て、1998年、牧阿佐美バレエ団に入団。これまでに「くるみ割り人形」に主演するほか、特にソリストとして、「白鳥の湖」のパ・ド・トロワ、「眠れる森の美女」の妖精、「ドン・キホーテ」の森の女王、ボレロ、キトリの友人、「くるみ割り人形」の雪の女王、「ボレロ」(牧阿佐美の振付)など、数多く重要な役柄を踊っている。音楽性に優れ、長身に恵まれた美しい容姿と、長い四肢が描くやわらかな動きが持ち味となり、古典作品だけでなくモダン作品でもその魅力を発揮している。1994年、第51回全国舞踊コンクール・バレエ・ジュニアの部で第1位を受賞。